

一般名:ブセレリン酢酸塩

	自 社 製 品	類 似 薬
	ブセレリン点鼻液 0.15%「ILS」	スプレキユア点鼻液 0.15%
効能・効果	子宮内膜症 子宮筋腫の縮小及び子宮筋腫に基づく下記諸症状の改善 過多月経、下腹痛、腰痛、貧血 中枢性思春期早発症	子宮内膜症 子宮筋腫の縮小及び子宮筋腫に基づく下記諸症状の改善 過多月経、下腹痛、腰痛、貧血 中枢性思春期早発症 <u>生殖補助医療における卵胞成熟</u>
用法・用量	〔子宮内膜症及び子宮筋腫〕 通常、成人には1回あたり左右の鼻腔内に各々1噴霧ずつ(ブセレリンとして300 μ g)を1日3回、月経周期1~2日目より投与する。なお、症状により適宜増減する。 〔中枢性思春期早発症〕 左右の鼻腔に各々1噴霧投与(ブセレリンとして300 μ g)を1回投与とし、通常1日3~6回投与する。効果不十分のときは皮下注射法に切り替える。本剤の効果は、本剤投与前と比較した投与2週以降におけるGnRHテストの血中LH、FSHの反応性の低下及び血中性ステロイドの低下で判定する。	〔子宮内膜症及び子宮筋腫〕 通常、成人には1回あたり左右の鼻腔内に各々1噴霧ずつ(ブセレリンとして300 μ g)を1日3回、月経周期1~2日目より投与する。なお、症状により適宜増減する。 〔中枢性思春期早発症〕 左右の鼻腔に各々1噴霧投与(ブセレリンとして300 μ g)を1回投与とし、通常1日3~6回投与する。効果不十分のときは皮下注射法に切り替える。本剤の効果は、本剤投与前と比較した投与2週以降におけるGnRHテストの血中LH、FSHの反応性の低下及び血中性ステロイドの低下で判定する。 <u>〔生殖補助医療における卵胞成熟〕</u> <u>左右の鼻腔に各々1噴霧投与を1回投与(1回あたりブセレリンとして計300μg)とし、通常、採卵の34~36時間前に2回投与するが、患者の反応に応じて、投与回数は1回~4回の範囲で適宜調節する。</u>